

能登島の秋祭り



能登島の秋

実りの秋、市内の各地区では、五穀豊穰を感謝する秋祭りが行われる。能登島地区では、9月第3日曜日、向田の伊夜比咩神社から始まり、10月19日の島別所の八昇社（別所神社）まで、17日間にわたる祭りが行われる。秋祭りは、簡素な春祭りに比べ、家に親戚や知人、友人を招いて酒を酌み交わし、にぎやかに行われる。



豊年ジャ（三番叟）

在所によって多少の違いはあるが、秋祭りは、神社での神輿への神遷しの儀や宮祭りが行われた後、境内で獅子舞や、にわか（金居形式のもの）を演じて奉納する。その後神輿は神社を出発し、在所を巡行する。その年に結婚や出産、新築などのお祝い事があつた家は、神輿を招待し、庭先では獅子舞やにわかが行われる。それ以外の家々では、門祭り（家の門前にごぎを敷き、机を設け神饌をお供えし、神輿を向かえるもの）を行う。

向田の秋祭り

向田の秋祭りは、朝早くから行われる。9時には宮祭りが行われ、その後境内で奉納の獅子舞とにわかが行われる。獅子舞が始まるころになると、近所の人々が神社に集まってくる。

太鼓と笛の囃子に合わせて、最初に「豊年ジャ」が始まり、次に獅子舞の「二本棒」、「一本棒」、「チエチエンガ」、「マサカリ」、にわか「ヤーヤ」、「サテサテ」、「団七」と次々に演じられる。

奉納が終わると、神輿は境内を出発し、町内を巡行する。

百軒ほどの家を一軒一軒回り、そのうちご招待の家は、20軒ほどだという。

ご招待の家に到着すると、壮年団が「ホイサー。ホイサー。」と威勢のよい掛け声とともに神輿を担ぎ上げ、軒先を練り歩く。その後獅子舞、



ご招待の家の前で神輿が練り歩く

にわかが行われ、見物客には、飲み物などが振舞われる。途中、「トザイ、トウザイ（東西）〇〇様より、向田壮年団に金一封ください。」という口上で花代の披露もされる。

神輿や獅子舞をご招待の家を出発してしばらくすると、豊年太鼓が少し遅れてやってくる。こうして、太鼓や囃子



子ども神輿

が町に響き、神輿は台車に頼ることなくにずっと担がれ、夜遅くまで祭りは行われる。あたりが暗くなるころには、神輿には灯がともり幻想的な雰囲気を出していた。

子どもたちも、子ども用の神輿を担いで一緒に回っている。この子どもたちも、もう少し大きくなったら、獅子舞やにわかを演じるのだろうか。小さいころから、慣れ親しんだ祭りのリズムが身について、



大人になったときに、ふるさとへの愛着が生まれるきっかけになるだろう。

向田から伝わった

獅子舞

能登島に伝わる獅子舞やわかは、在所によって異なり、多種多様である。その在所でしか行われていない珍しい演目もある。島の中部や西部で演じられる獅子舞は、にわかとともに向田から伝わったといわれている。中心地の向田から曲、曲から南、南から閨、閨から無関へ、西部へと伝わっていった。また、能登島から対岸の七尾地区や田鶴浜地区、また穴水にも伝わったとされている。

最近では、人手不足や高齢化で、獅子舞やにわかを行わず神輿を出すだけの在所もあるという。市街地でも、秋祭りの神輿や獅子舞を見る機会



がめつきり少なくなった。今まで伝え受け継がれてきたものが、時代の流れで途絶えてしまっているのは残念である。今後祭りを伝承していくには、少子高齢化、過疎化の中で地域の人々の努力が必要になってくる。しかし、今回の能登島の秋祭りでは、久しぶりの獅子舞、初めてのにわかを見て、祭りの素朴さとおもしろさを体感することができ、壮年団や地域の人々の町や祭りに対する熱い思いも感じることができた。

これからも、地域を愛する人々が、先人が築いてきたものを守り、次世代に繋いで伝えていくことを願う。



能登島 秋祭り開催日

向田	9月第3日曜日	野崎	10月10日
緩目	9月23日	須曾	10月11日
曲	9月最終土曜日	閨	10月12日
二穴	10月2日	半浦	10月13日
祖母ヶ浦	10月4日	通・田尻	10月14日
八ヶ崎	10月5日	久木	10月14日
日出ヶ島	10月6日	百万石	10月14日
長崎	10月7日	南	10月15日
佐波	10月8日	島別所	10月19日
無関	10月9日		

にわか

DATA

能登島の秋祭りで演じられるにわかには、在所によって異なり、さまざまである。また、同じ演目であっても名称が異なるものもある。



サテサテ



団七